

エサキアメンボ

Limnoporus esakii Miyamoto
カメムシ目・アメンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県では1か所でしか採集されておらず、分布は局所的で、個体数も少ない。池沼でも挺水植物の間という環境に依存しているので、環境の変化、悪化による影響を受けやすい。

種の特徴

体長7～11mm。褐色の背面に白色の側面が鮮やかな美しいアメンボ。水草の多い池沼の挺水植物の間に住み、開けた水面には出てこない。

分布

北海道～九州に局地的に分布する、稀な種である。本県では敦賀市での記録があるだけで、個体数も少なく、生息場所も限られている。

生息を脅かす要因

湿地の環境悪化、外来種の進入等による環境の変化等により絶滅する可能性は高い。また、化学物質等による水質の悪化も懸念される。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、宮本（1965）、日浦（1993）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

シロヘリツチカメムシ

Canthophorus niveimarginatus (Scott)
カメムシ目・ツチカメムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

1938年の「福井県昆虫図譜」以来記録がなかったが、2005年、2015年に大野市内で確認された。本種が寄生するカナビキソウの減少とともに全国的にかなり減少しているとされ、本県でも注視が必要である。

種の特徴

体長6～8mm。体は黒色で側縁は黄白色に縁どられる。カナビキソウに寄生し、メス成虫には卵を保護する習性があることが知られる。本種が寄生するカナビキソウは日当たりのよい山野や芝地に生えたとされる。イネ科植物雑草間で得られることがあるという。

分布

本州～九州に分布。県内では戦前に永平寺町浄法寺村での記録があり、以後70年以上記録がなかったが、今回大野市佐開、円山で確認された。

生息を脅かす要因

寄主植物が生育する環境が減少したことが原因とされる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、林（1983）、環境省（2015）、平嶋・森本（2008）、安永ら（1993）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○						○	

コカスリウスバカゲロウ

Distoleon contubernalis (MacLachlan)
アミメカゲロウ目・ウスバカゲロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回は三里浜や鷹巣海水浴場等の砂浜海岸を中心に調査が行われたが、確認できなかった。生息環境である河川敷や砂浜海岸は人為的影響を受けやすい環境であり、本種の生存基盤への圧力は強い。

種の特徴

体長27mm、前翅長33mm前後。海岸沿いや河川敷の砂地に生息し、成虫は7～10月にみられる。砂の中に20卵ほどを産み、幼虫は海岸のマツの稚樹の下等砂地に棲む。幼虫は徘徊型の生活をする。

分布

本州、四国、南西諸島に分布。県内では三国町山岸の九頭竜川河川敷で記録がある。福井市自然史博物館には福井市大窪町の砂浜海岸で採集された標本が所蔵されている。

生息を脅かす要因

砂地の広がる海岸や河川敷の開発ならびに砂地の減少が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、伊藤ら（1977）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○